2024.5.17　日本証券新聞

（第三種郵便物認可）

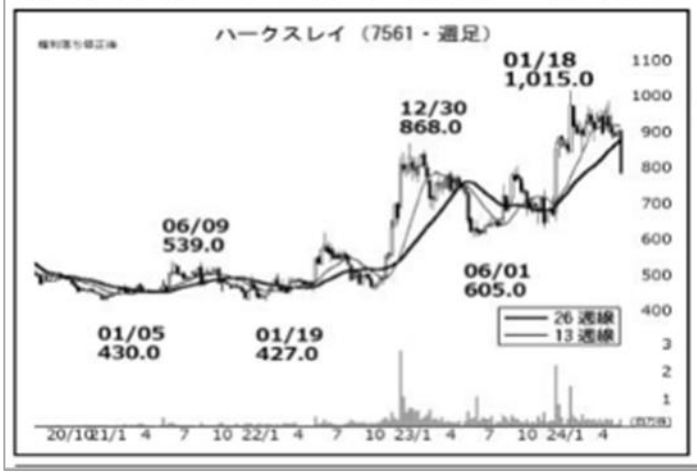
ZOOM UP（ズームアップ）

ハークスレイ　コロナ禍乗り越え業績V字回復

弁当など中食からの構造変革を推進中

持ち帰り弁当「ほっかほっか亭」を展開するハークスレイ（7561・S）の業績が急ピッチで回復している。15日開示した2024年3月期業績は売上高が前の期比31%増の468億円、営業利益は同67%増の24億3600万円と計画比上振れ着地となり、コロナ禍で落ち込んだ業績がV字回復を遂げた。さらに、25年3月期は売上高が前期比4・8%増の490億円、営業利益は同0・6%増の24億5000万円と増収・増益が続く見通しを示した。

「持ち帰り弁当事業」はエネルギー・原材料価格の高騰を値上げが補ったほか、コロナ収束に伴うイベントなどの外販営業が好調に推移。店舗リースや不動産賃貸を手掛ける「店舗アセット&ソリューション事業」は、経済活動正常化を背景に飲食店などの出店需要が拡大しており、店舗運営のコンサルタントとしてのソリューション提案が寄与し2桁増益を確保した。また、「物流・食品加工事業」では物流部門における業務効率化や最適化の進捗、菓子製造部門の販売好調が大幅増益につながった。

今回の決算では同社が推進している構造変革の効果が鮮明となった。祖業である弁当事業は少子化などを背景に成長率が鈍る一方、店舗アセット&ソリューション事業と物流・食品加工事業では稼ぐ力が着実についてきた。実際、各セグメントの前期売上高は弁当169億円、店舗158億円、物流・食品165億円とバランスが取れており、弁当の中食事業を中心としたポートフォリオからの変革が軌道に乗ってきた様子がうかがえる。今後も事業領域の一段の拡大に向けてM&Aを推進する考えだ。

今期に3期連続増収、4期連続増益の見通しを掲げるなか株主還元の強化も継続。年間配当予想は前期実績比2円増の1株当たり26円とし、無配に転落した21年3月期から4期連続増配を見込む。財務指標面ではROE（自己資本利益率）が8%に向けて着実に改善。東京証券取引所が資本コストや株価を意識した経営の実現を要請するなか、足元で0・6倍台にとどまるPBR（株価純資産倍率）を1倍以上に向上するために資本収益性を意識した経営に取り組んでいく。